

ヤマモモ

今年は、真っ赤な実がたくさんありましたね。こんなに多くの実を見た記憶がないので、近年の白井中、No.1ではないでしょうか！なんの実でしょう？正解は、少し前、職員玄関までの道に落ちていた、「ヤマモモ」の実です。「ヤマモモ」は、「雌雄異株 しゅういしゅ」（メスとオス？木にもメス・オスがあるんですか？調べてみてね。）の木です。多くの木は、雌雄同株ですが、身近な木にも、いくつか例は見られます。例えば、白井中学校にもある「イチョウ」。また、「キウイ」や、「山椒」も雌雄のある木です。ところで、皆さんは、なぜ木は動かないんだろう？と考えたことがありますか。また、そもそも、木に「雌・雄」があるなんて考えたことがありますか？「木」は動きたいのに動けない。なんてかわいそう……。でしょうか？いいえ、「木」は、「動かないこと」を選択したのです。ところで皆さん、「木」は、何を栄養として成長しているのでしょうか？根から養分を吸い上げ、光合成で炭水化物を作り出す。そうです、「木」は動かなくても、栄養を摂取し、作り出し、成長できるのです。もし、「木」が話せたなら、「なんですって？動物って、わざわざ動かないと栄養がとれないの？気の毒ね。えっ、ご飯が食べられないこともあるの？大変ね。」と、同情されるかもしれません。つまり、「木」は、動く必要がないから動かないのです。ただ、動き回らないので、「繁殖」という面では、不利かもしれません。でも、思い出してください。木や草に咲く花々の戦略を！（今までも、いくつか紹介しましたね。）そうです、「木」は、自分たちの思いのまま、昆虫や、鳥を利用して、動かなくても立派に繁殖しています。



さて、「雌雄異株」の「木」のメリット、デメリットを考えてみましょう。例えば、「イチョウ」。「イチョウ」を漢字で書くとどう書きますか？正解は「銀杏」です。そして、この字は「ぎんなん」とも読みますね。白井中学校には、その昔、「ぎんなん」をバザーで扱っていたくらい、たくさんの「イチョウ」の実、「ぎんなん」が落ちていました。食べるとおいしい「ぎんなん」ですが、その臭いは、なかなか強烈です。街路樹としての「イチョウ」は、美しく、とても魅力的です。でも、あの実の臭いが……。となれば、「雌」「雄」どちらかの木だけを植えればいい、ということになります。また、自分の木だけでは受粉できないので、バリエーションにとんだ繁殖も可能です。デメリットとしては、「両方の木」がいなければ、結実しないということでしょうか。さて、「木」は、動物に比べ「大きい」し、「長生き」です。「動き回る。」という機能を放棄し、無駄なエネルギーを使わない、そんな戦略を「木」は選んだのでしょうか。このような植物の不思議が知りたい方は、国語科の先生に声をかけてください！楽しい本を紹介します。（余談ですが、ヤマモモは、私にとっても懐かしい木です。実家の庭に植わっていました。実家の木は「雄」の木だったので、実はつきませんでした。）